

# Gallery 愛海詩

えみし

## 元祖 伊賀組紐 三代目 廣澤徳三郎 作品展

日本の伝統を伝える

10月7日～10月19日

彩遊の号 No.11

愛海詩の会  
会報

平成26年10月15日発行

編集発行人/ギャラリー愛海詩  
佐藤 睦子

〒064-0821  
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号  
TEL・FAX/(011)613-1112

WEBSITE  
http://www.emishi-s.com  
E-mail:kougei@emishi-s.com



創作中の廣澤徳三郎

「奇跡のギャラリー」  
「ギャラリー愛海詩は奇跡のギャラリーなので、思わず、自身の言った言葉に、我ながら驚いてしまった。言った後で、「言い得て妙だ」と思っている、いや、それは、的を得ている、とも思ったのだ。「奇跡のギャラリー」：「この秋で十六周年を迎える。ある人がおっしゃった。「正直、この小さなギャラリー、一年で閉じてしまうだろう」と思っていたよ。特に主宰のあなた、ふあっとしているように思えるし、「きつと、そのように思われた人は、一人や二人であるまい。当の私も、「よくここまで長くやって来られたなあ」と思っているのだから、冒頭の言葉にもつながって行く。」  
ギャラリー愛海詩は、十六周年を迎えた。この「奇跡のギャラリー」を作り得たのは、何よりも人との出会いであり、職人・作家のすばらしい技であり、会員諸氏を含め、ご恩をいただいた方々のおかげであります。一人、一人、お名前を書き始めたら、紙巾はすぐ足りなくなってしまう。また一方で、効率というのを考えれば、今の風潮に逆行していることかもしれないのだが、私はこれからも、この効率の悪いかのように思える文化の種を植え育て、語り、人の心の中にある光に照らされ、この「奇跡のギャラリー」を一心に感ずることなく、あたたかも遊んでいるかのように、いろいろなことを見つめ、知り、感じて、つなげて行きたいと思う。  
手作りの作品、この嗜好品を繋げて行くのは難しい時代であるように思われるが、私はこの、人の手から人の心へ、つないで行くわらない魂は、いつの世もつながって行くものだと思つた。「奇跡のギャラリー」その奇跡をお支え下さっているお一人お一人の思いに込められるよう、これからも励んで参ります。  
そしてギャラリー愛海詩に、佳きご縁をいただいた方々に、心より感謝申し上げます。その方々へのご恩返しは、いつも私の胸の中にある。  
(佐藤 睦子)

### ☆ご案内

来たる10月16日(木)、14時～16時まで、廣澤徳三郎を囲む会を致します。伊賀組紐の歴史、自身の作り手としての営み、作品を語っていただきます。伊賀組の伝統工芸を守って行くこととする貴重なお話を聞けることと思います。先着8名様までです。ギャラリー愛海詩へお早めにご予約下さいませ。

### プロフィール

- 昭和21年 元祖伊賀組紐2代目徳三郎の長男として生まれる。
- 昭和53年 第2回全国伝統工芸品展協会会長賞受賞
- 昭和54年 勲6等瑞宝章受賞
- 昭和55年 第4回全国伝統工芸品展協会奨励賞受賞
- 平成3年 伝統工芸士認定(通産大臣指定)
- 平成5年 中部通商産業局 局長表彰
- 平成6年 勲7等宝冠章受賞
- 平成12年 第1回伊賀組紐展市長賞受賞
- 平成13年 三重県産業功労賞 知事表彰
- 平成14年 第2回伊賀組紐展(財)伝統的工芸品産業振興協会会長賞受賞
- 平成15年 第3回伊賀組紐展市長賞受賞
- 平成19年 経済産業大臣表彰

- 皇后陛下美智子妃殿下下台覧<昭和42年>
- 皇后陛下ご高覧の際帯締め高麗十六菊模様を献上
- 皇太子殿下、美智子妃殿下下台覧<昭和48年>
- 皇太子妃殿下雅子さま御料品として納入御買い上げ<平成11年>
- 秋篠宮妃殿下下紀子さま御料品として納入御買い上げ<平成11年>

### <伊賀組紐の歴史>

我が国の組紐の歴史は、古く大陸文化が渡来したときに伝わりたるものといわれています。組紐に唐組や高麗組という名称が今に残っていることや、1904年のスタイン博士の中央アジア探検時に砂漠の中から発見された紐の断片と同一の品が、我が国正倉院に篋篋という楽器の紐として保存されているのを見てもうなずく事ができます。  
初めは主に経巻・華籠などの仏具、神具、武士の甲冑や刀の紐などに用いられ、その技術は時代とともに伝承され、主に武具として大小名の庇護を享けて江戸のみ残っていました。その後、明治維新の廃刀令によって今までの武具から帯締めとしての用途に需要が拡大されました。  
その技術を明治35年、廣澤徳三郎が習得し、この地に持ち帰り開業したのが伊賀組紐の始まりです。以来、伊賀組紐は地場産業として大きく発展し、今日に至っています。  
初代徳三郎が蒔いた一粒の種が、伊賀の人々の手によって脈々と受け継がれ、昭和51年には国の定める伝統的工芸品に指定されています。



上段 60玉 柄物 うさぎ柄帯締  
中段 68玉 玉石垣亀甲総柄帯締  
下段 72玉 白金撫子片方柄帯締

すばらしい技が凝縮されたような美しい作品です。徳三郎氏ならではの雅な作品です。締めた時のもどりの感覚が凍と至福の時を約束します。

### ご挨拶～作品展によせて～

今回は、北海道で2回目の作品展を開催させて頂く事になり大変嬉しく存じております。前回は、平成22年オリンピックの開催年であったと記憶をしています。偶然にも、その4年後の記念の年に同地で開催出来ますこと考え深いものがあります。

私の出身地は伊賀市で、京都・伊勢・名古屋・大阪の真中に位置します。人口10万人で周囲は山に囲まれた盆地です。観光の主役は、組紐とも関係深い伊賀流忍者発祥の地、俳聖松尾芭蕉生誕地です。忍者屋敷は年間20万人の観光客をお迎え、芭蕉は翁を偲び俳句の愛好者たちが当地を訪れています。今年の札幌雪祭に、芭蕉の雪像を計画しておりましたがやむ得なく断念しました。伝統行事は10月の天神祭があり国指定重要無形民俗文化財に指定された行列が祭行されます。このように自然豊かな里山で、歴史・伝統が活気づき、独自の文化を形成してきた伊賀地域に根づいたのが伊賀組紐です。

国指定伝統的工芸品産地は沢山ありますが、後継者不足と中国産製品等の影響で若い人の技術者が育たず多くの産地は苦慮しているようです。当業界も技術者の高齢化が進み5年から10年の間には手組帯締め製作が危ぶまれています。今回の作品展は、今後製作が不可能と思われる作品も展示させて頂きます。磨きぬかれた伝承の心と技が生み出した優美な糸の芸術・格調高い伝統の香りが伝わる徳三郎の帯締めをご覧いただければ幸いです。その他作品も伝統の技術を生かした和装小物・ネクタイ・ストラップ等多彩な作品をご用意いたします。お楽しみください。

今回の展示会では、期間中10月16日(木)の1日ですが、私も工芸ギャラリー「愛海詩」にお邪魔して親しく皆様方にご説明やお話をさせて頂きたいと存じています。皆様方に於かれましては、ご多用と存じますがこの機会に是非お越しください。よろしくお願いたします。

(伝統工芸士・3代目 廣澤徳三郎)

### お知らせ

10月16日(木)、午前11時から約1時間、廣澤徳三郎がFMラジオカロス札幌「木曜而今」に出演いたします。伊賀組の興味深いお話など、お聞き下さいませ。チャンネルはFM78.1Mhzです。ご質問、ご意見などございましたら、「木曜而今」宛で番組にメールやFAXを送って下さい。メール:request@radiokaros.com FAXは011(622)2223でございます。沢山の方々に聞いていただきたく思います。



手組みネクタイ (絹100%)  
巾7cm～8cm×長さ146cm

手組みのネクタイだからこそ出せる模様様のラインが流れるように爽やかだ。手組みのネクタイは、熟練の技を要する。締めごこちが良く、存在感が外にはないしやれたスタイルを醸し出す。



手組みマフラー (絹100%)  
巾21cm×長さ134cm

細い組紐の糸をふんだんに使い、やわらかく、ふわとした肌ざわりでつけ心地がすばらしいマフラーである。いろいろな色合いがあり、着る服をさりげなく引き立たせる。

伊賀組紐と忍者。あらぬ想像は承知で、廣澤氏にお尋ねしてみたら、忍者が伊賀組の紐をつかって忍術をしていたという文献が残っているらしい。「やはり、伊賀の組紐は魂のこもった、特別な紐なのだ…」と妙に、その取り合わせに納得させられました。

伊賀組紐の第一人者、三代目・廣澤徳三郎氏、ギャラリー愛海詩で2回目の作品展です。久方振りに、廣澤徳三郎氏の作品展ができることをうれしく、誇りに思います。また、1日だけですが、ギャラリー愛海詩に滞在してくれることも、より一層、廣澤氏の素晴らしい組紐を札幌で知っていただくことになり、有難いことです。様々な仕様の帯締め、ネクタイ、ベルト、和装小物など、約35点を展示します。着物を着こなす方なら、伊賀組、廣澤氏の作品の大ファンは多くいらっしゃると思います。その使い心地のよさは、本物の組紐が無言で語る饒舌な言葉とも言えます。

廣澤氏は伊賀市上野の公職の重責をいくつも担いつつ、伊賀組紐の後継者も育てています。

半世紀の間、伊賀組紐一筋にその基本を守り、新しい組みにも挑戦し、この日本の伝統工芸の灯を消さぬよう、日夜励んでおります。話しを聞きますと、仕事も遊びも一生懸命やり、日々黙々とやるべきことはきちんとやるという日を重ねを大切にされている正に芯の通った方です。

廣澤氏の作品を、北海道ではこうして一同にはご覧いただく機会なかなかございませんので、是非、ご高覧くださいませ。



組紐ショルダー (組紐部分 絹100%)  
横18cm×縦19cm

組紐の肩かけ部分、物を入れる部分と使い心地の良いしなやかさ、軽さが、お出かけ、旅行、お買い物の時など、便利に楽しませてくれる、素敵なおしゃれなショルダーである。